

より深い交流と懇親をもとめ関東同窓会の
発展・充実にそれぞれの力を出し合おう！



静中・静高 関東同窓会 会 報

静中・静高関東同窓会
会報 第21号
昭和61年6月27日発行
編集人 月見里得知郎

新しい年、昭和六十一年を迎え
一月十四日夜、新年会が行われた。
出席者は次の通り。

- 38 石割正、42 岩波信平・宮澤次郎
- ・井出多米夫、43 西沢純三・今井
- 志郎、44 村井東助・白井茂、45 田
- 附敏三・大石清、49 菅沼栄、50 永
- 田激、53 奥野孝・月見里得知郎・
- 大石巖・徳永悠久、54 庵原梯次、
- 57 岩井平一郎、59 奥沢徹、60 上杉
- 重吉、66 田中俊男・山下智康・武
- 藤勇、67 成岡英彦、68 荒谷じつ子
- ・杉山和子・北村公一、69 松島玲
- 子・神谷貞子、70 関哲男・中島敏
- 雄・深見明、71 石川宏・伊藤勝・
- 篠原直・後藤弘枝、73 仲川信正、
- 82 杉本三郎、87 藁科名雄、92 清水
- 篤、96 高橋聡
- 宮澤会長を中心に話がはずみ、
大いに懇親の実もあがった新年顔
合せ会であった。

- ◆ 幹事会
- ・ 60年12月4日(水) 18時より
 - ・ 新宿NSビル8F
 - ・ トップバンムニア会議室
 - ・ 出席者 38名
 - ・ 60年度行事のまとめ
 - ・ 61年度事業予定
 - ・ 会報20号配布の依頼 など
 - ◆ 19回叩高ゴルフ会
 - ・ 60年12月4日(水)
 - ・ 大仁カントリークラブ
 - ・ 11名参加
 - ・ 優勝 北里良夫(43期)
 - ・ 準優勝 石山 宏(70期)
 - ・ 第三位 上杉重吉(60期)
 - ◆ 新年会
 - ・ 61年1月14日(火) 18時より
 - ・ ビストロ ラ・ポスト
 - ・ 会費 五千円
 - ・ 出席者 41名(別記)

その後の同窓会活動

(S 60年12月~61年5月)

報でも諸問題が提起されていたが
本年度は会員の意見・希望を反映
し、力を出し合って行事運営等を
さらに充実し、親睦の輪をひろげ
て一層岳南健児の意気を示すよう
にしたいと思う(といっても、あ
まり気張らずに、柔軟に)。

- ◆ 幹事会
- ・ 61年3月13日(木) 18時より
- ・ 新宿NSビル8F
- ・ トップバンムニア会議室
- ・ 出席者 36名
- ・ 61年度総会への準備依頼
- ・ 会報第21号の原稿依頼
- ・ 名簿の訂正につき協力依頼
- ・ 60年度年会費の期別納入表を配
布し、より一層の協力要請など
- ◆ 幹事会
- ・ 61年5月14日(水) 18時30分より
- ・ トップバンムニア会議室
- ・ 出席者 46名
- ・ 60年度事業および会計報告
- ・ 61年度事業計画および予算案
- ・ 61年度総会について
- ・ 総会案内発送の依頼 など
- ◆ 87期有志との懇親会
- ・ 61年6月6日(金) 18時より
- ・ ビストロ ラ・ポスト
- ・ 出席者 53奥野 孝、54庵原梯
次、60上杉重吉、67成岡英彦、
87期の4名：藁科名雄・平岩正
史・橋村芳一・高橋 宏
- ・ 75期から90期あたりまでの同窓
生のより強力な協力を求めるため
はじめての意見交換会を開いた。
- ・ 種々貴重な意見の具体化を図る
とともに、このような会合を随時
続けていくことの必要性を痛感し
た次第。

各 期 便 り

四五回

報告とお知らせ

静岡高岡同窓会が誕生して今年で満10年になりました。この会のおかげで、私ごとで恐縮ですが、関東地区在住の同期生の消息がわかり、何人かの友とは静中卒業以来初めて会って旧交を温め得たし、さらには思いもかけず先輩であり、または後輩である方を発見できたりして喜んでおります。本同窓会発足の昭和51年頃、第45期のわれわれは、自営や特別の仕事に掌わる人の他は既に責任ある第一線の仕事を離れ、それぞれ自適の生活に入って日も浅い者が大部分でした。したがって、私などは、現在でもそうですが、さきゆきよりも自らの来し方足跡を回想し、その時々思い出しに耽けることの方が多かったと思う。その心情はみんな同じだったとみえ、関東同窓会への関心も深く、その総会に在籍22人中13人、同期会に14人も出席したことがありました。

しかし、10年の歳月は残念ながら同期の者にも変化をもたらしました。先ず第一に6人の仲間を失いました。1田中正治(昭52没) 直原信衛(53・10)、青木栄(58・3)、桜井誠(58・5) 斉藤謙一(59・10)、田代正(59・11)。

また病後のリハビリその他のため遠出が困難なものが5名ほどおります。そのため気持はあっても総会や同期会に参加できぬ方がめっきり多くなりました。大変寂しいことです。そこで都合のつく者たちだけでも、次のような定例会を計画し、既に1月と3月に集りを持ちました。

○定例日時 奇数月の第2火曜日 午後4時より
○定例会場 有楽町の新国際ビル 3階の生命保険倶楽部

電話 ○三一二三九五五八
今年の今後の定例会は5月13日 7月8日、9月9日、11月11日です。体調を整えご参加下さるようご案内いたします。(出席希望の方は前日までに鈴木までお電話下さい)
(鈴木弥門)

四六回

第十六回同期会の模様

去る三月八日静岡在住幹事繁田幹氏の御骨折で浅間神社前の魚藏で、同期会を開催した。京都からは村松道平君、神戸からは吉江雄氏、大津からは後藤秀雄氏、名古屋からは今井尚氏、東京からは一宮弘道氏、夙入秀夫氏と小生、

等々遠方からもかけつけて、総勢三十三名の出席者があった。卒業後五十五年近くなるのに、同級生はありがたいもので、一度顔を見れば、もとの子供時代に帰って楽しい半日を過すことができた。今日の会合は、同級生で静岡県知事の山本敬三郎氏が知事を勇退することを決意されたので、三期間の大役に対する御慰労の意味を

こめて開催された。日本のすぐれた地震学者を多勢動員され、強固な組織の下に、県民の皆様のを十分に得て、大げさにいえば、日本のすぐれた地震対策のモデルを確立され、しかも今後の対策費をもふくめて県の財政を全く健全なものにされた御功績には、同級生として感心もしたし、皆敬意を表した次第である。同君の今後の御清勝と、同級生諸君の御健勝を切にいのる次第である。

△追記▽

おわりに一言小生の現況を申述べる。現在帝京大学医学部客員教授として公衆衛生学(主として人間生態学)を同大学大学院生に週一回講じており、市ヶ谷駅近くの山陽ビルの中に勉強部屋として総合保健研究所を開設している。尚静岡新聞論説委員として誌上に時々、保健関係のことを発表している。健康は年相当地に少しおとろえては来たが、毎日元気です。絵などもかいている。昨年パリサロンドートニスに入選し、今後も同展に出品の予定である。

(山本幹夫)

四七回

東京で例年通り同窓会

毎年の事であるが、十二月にな



ると、東京・静中四七回同窓の新年会の通知が、亀山敏男幹事長から舞込んでくる。今年も一月十六日にいつもの新宿の松澄に集まった。

今年には出席総勢十八人、関東在住者の六〇〇余り、近來に無い多勢である。久し振りに高山がつややかな顔を見せし、去年は来なかった関口や野口も、病氣だった鍋田も元氣な姿を現わした。鍋田は少し舌がもつれるが、こんな席に出て来られるのは結構な事である。先着組と噂をしていたら、石割五郎が到着した。佐津川の返事は「出席八〇〇欠席二〇〇の予定」との事であったが、二〇〇の方が一〇〇〇となって出席率を悪くした。

遠方では熱海から常連の中村豊夫、向坂誠一が、下田から後藤卓郎が、大月から建物が重要文化財に指定されている納豆製造業の星野三郎が駆けつけた。

亀山幹事長から、昨年の吉田実の死去のこと、静岡の草ヶ谷が目下大病で苦しんでいる事が報告された。吉田の冥福を祈り、草ヶ谷芳夫の本復をまつ。

恒例となったが、横浜の片山正二商店から卸値以下の特別価格で全員に甘栗の大袋が行き互った。

鳴谷博士も出席、しかし今年には小講演もしなかった。「日に二合以上飲む人は短命です。摂生が大切です」が口癖なのに、ご自分は今晩大分きこし召して、二合では納まらない様子である。山上長官も元氣である。「長官はもう願ひ下げだ」と言うが口角泡を飛ばす論説は変わらない。後藤が「太った奥さんが体操をした拍子に、足首を痛めて歩けず背負っても重いので、世話をするのに苦労した」話をする。齢をとると骨がもろくなるので「用心第一」ということ。「転ぶな、風邪ひくな、義理を欠け」ということ。

亀さんが、もう五年も幹事をしたので辞めると言いだして、二名連記の投票になった。名幹事は完全に再選、志田が副幹事、杉江が手伝うと言うことで元の輪におさまった。

今日欠席の「田中達ちゃんはどうした」「山家は病氣か」「両海野はどうした」「石川は……」等々、欠席者の噂話も一頻りである。

六年前に癌の疑いで胃を切った吉見はピンピンしている。煙草もそして酒も注げば断らずに杯を干す。癌の方で閉口して引き下がったのであろう。中村は上京の車中で一杯きこし召したと言うので、

ホノリしている。以前に比べて弱くなったのかも知れない。杉江監督がいう。「この十八日(土)一〇・〇〇A・MからTB Sで旧作「西の王将、東の大將」(藤田まこと、谷啓、園まり、浜美枝)が放映される。死んだ高橋平家も一寸姿を見せるぞ」と。二〇数年前の作。成程、出演者もみんな若く、監督も油の乗り切っていた頃であらう。

台所を預かる志田が資金集めの「迷案」は無いかと貧乏所帯の切り盛りに苦心中であるが、酒はドンドン出て来るし、ウイスキーはあるので、皆さんご機嫌である。首相礼讃の政治論も聞かれたが、余り高尚な話には発展せず、最後は例によって、しかし何時もと違って、少し酔った杉山栄ちゃんの音頭で校歌を合唱。ただ、この頃には、寄る年なみでもあるまいが約半数が座を立っていた。来年は星野家の大月納豆も販売される筈である。

出席者(敬称略)
石割、片山、亀山、後藤、志田、鳴谷、杉江、杉山、関口、高山、中村、鍋田、野口、星野、山上、吉見、向坂、今関
大村三郎が欠席なので、「議事録」のお鉢が亦こちらに回って来

た。変哲もない作文だが静岡の連中にも読んで貰う積りで書いた。(今関智吉)

五〇回

五〇期会のつどい

静中五〇期会は例年、一月十五日静岡で盛大に開かれていたが、その関東同窓会は七日程前に開かれて以来のことである。この度、永田幹事の骨折りで四月二十一日夜、東京・霞が関のアリタリヤ航空地下のレストランに浅賀、梅村大庭(左)、大庭(富)、梶原、一、佐野、田中、永田、益田、丸尾、森、山田、峰田、江川の十五名が集った。卒業以来五十一年経って、いづれも老境に入っているが、まだ第一線で活躍している者も少なくなく、大いに飲み大いに語って時の経つのを忘れる程であった。静中時代の恩師の教壇上の仕事の物真似など出ると談いよいよ弾み、さいごに「岳南健児一千の」を大声で斉唱して次回の集いを約して解散した。(江川友治)

五四回

枇杷の葉の効用

われわれ同期生も六十台半ばにさしかかり、本人も伴侶も肩こり

・腰痛等々病氣とまでゆかぬが、故障の出て来る年頃ではないかと思う。

聊かお役にたてばと思ひ体験談のお話をしよう。

梅雨時に美味しい実をつける枇杷は昔から屋敷内に植えることを忌み嫌う風習があったが、枇杷の葉の薬効は古くから伝えられて居った由である。お迦釈様が説かれたインドの古い經典の中にその薬効が記されているというから実に三千年も昔のこと、日本に枇杷葉療法が伝来したのも奈良時代、八世紀頃だといふ。

さて枇杷の葉療法にもいろいろあるようであるが、私が体験したものを二、三御披露することにしよう。

①枇杷葉温圧療法

(効) 能) 肩こり、腰痛、疲れ、頭が重いつつといった症状に威力あり(「療法」) 生の枇杷葉の裏側に布・紙の順序で重ね、セットにして棒状のもぐさをその上に当てがい、身体の患部(痛むところ、コリのあるところ等)に運んで直角に圧を加える(氣持がよい程度に)。熱が次第に通じ、熱さを感じたら前記の棒もぐさ及び枇杷葉・布・紙セットをいっしょに取り去る。

尚、以上の説明では分りにくい
 と思っているので御希望の向きには後述
 の治療具販売店で詳細お聞き願
 たい。

〔効果の原理〕生の枇杷葉の薬効
 成分アミグダリンを皮膚から体内
 に浸透させ、血液を浄化する。

〔長所〕手軽に家庭で出来る、
 熱くない、あとがつかない、副作
 用がない。

〔其他参考事項〕人に紹介して喜
 ばれたことが多いが、中には東大
 医学部出身の若い医師で愛用者が
 居る。

試用希望の方のために治療道具
 等の販売店を記載して置く(治療
 法も指導して呉れる)。

東京には十数店ある由だが、私
 の知っている店は、

株式会社 あなたと健康社
 〒一五七

世田谷区成城二ノ三三〇ノ一三

(成城ダイヤハイツ2F)
 TEL〇三―四一七―五〇五一

②枇杷葉エキス

(1)切りキズ、ひょうそう等に用
 いて効あり。

〔製法〕生の枇杷葉を巻いて卸
 金でおろし少々水で薄める。此の
 液を脱脂綿又はガーゼにしませ、
 患部に当てる。殺菌力あり。

(2)水虫退治

〔製法〕生又は乾燥した枇杷葉
 を細かくきざんでホロー引きの
 鍋で二、三十分煮出すと濃い茶色
 の液が出来る。体温程度にさめた
 液を足を漬けるに適當な容器に入
 れ二、三十分間足を浸す。

数日続けるるとよい。液は腐敗し
 ないから続用出来る。

(山口道也)

山口道也君は静中から東京商大
 専門部に進み、卒業後、住友本社
 に入社されたが、終戦後は財閥解
 体によって住友金属に就職するこ
 とになった。

五十年に、傍系の住金物産に移
 り、要職にあつて業界に活躍され
 たが、最近、退職され、二女も他
 家に嫁がれて、現在は奥様と二人
 睦まじく悠々自適の毎日を送られ
 ているとのこと。

戦時中は十七年十二月兵役で輜
 重三連隊に入隊されたが、中部軍
 司令部で終戦を迎え、二十年十月
 一日復員された。

静中時代、一年上の学年であつ
 たが、体をこわされ、休学して僕
 等と一緒に卒業された。それかあ
 らぬか、住金物産で重役の職にあ
 った頃、大病を患われたが、療養
 と節制に徹しつつ難病を克服し、
 元氣を取戻された由。今後共体は
 大切にしていきたい。(庵原)

五五回

私の人生遍歴

相川富士雄君から突然電話があ
 り、何かと思つたら会報への寄
 稿の依頼である。今は悠々自適?
 の身であり何んとかなるだろうと
 簡単に引受けたものの、いざ書く
 となるとはたと困つた。仕事を離
 れて丸二年、筆をとる機会も少く
 なり、頭の回転となると更に鈍く
 なつたことを今更ながら思い知ら
 されたのである。

思い余つた末、中学卒業以来の
 私の人生遍歴をご報告し、同期の
 皆様への便りに替えることにし
 た。

昭和十五年三月静中を卒業し、
 浜松高工に入る。翌十六年十二月
 大東亜戦争に突入、十七年九月練
 上げ卒業、日本石油㈱に就職した
 がただ一日の勤務で第二期海軍予
 備学生として軍隊入り、台湾で六
 ケ月の基礎訓練を受け、再び内地
 に戻り、館山砲術学校で高角砲の
 訓練を五ヶ月、終つて十八年九月
 一日海軍少尉任官と同時に久里浜
 海軍通信学校に入校、我が国初の
 新兵器電探(レーダー)射撃の勉
 強をさせられる。三ヶ月の勉強を
 終えたものの、実物の兵器は未完
 成のため、完成までの間というこ

とで、ラバウルにある第八根拠地
 隊司令部付として出征、そのまま
 遂に終戦まで帰還不能となる。そ
 の間十九年一月、最初の対空戦闘
 において被爆負傷したが幸い命は
 とり止める。その後、何回となく
 危機一髪目の目に会うが悪運強く生
 き延びる。そして十九年七月中尉
 に、翌二十年六月海軍始まって以
 来最年少で大尉に任官したが、同
 年八月終戦、翌二十一年六月無事
 内地に帰還できた。帰還後しばらくして就職先の日本石油㈱に出掛
 けたが全施設が賠償対象との事、
 就職を諦めて静岡に戻り、翌二
 十二年労働省が設立されたのに伴
 い、役人となる。以来労働者の安
 全衛生一筋の行政に従事、昭和五
 十三年労働本省環境改善室長を最
 後に退官するまで三十一年役人生
 活を送る。その後、労働通産両省
 共管の外郭団体の設立に携り、無
 事設立を終え、団体の基礎も固ま
 り、順調に滑り出したのを見届け
 て、後進に道を譲るのを口実に五
 十九年五月その団体役員を辞任
 し、先祖伝来の地千葉県安房郡天
 津小湊町天津で余生を送ることに
 して現在に至っている。

日本人の平均寿命は年々伸びる
 一方であり、六十一才位で仕事を
 辞めるのは早いとの意見も多く、
 外郭団体の役員辞任には団体から
 相当抵抗もあったが、私の人生設
 計のささやかな夢であった元氣な
 うちに自由に生きるといふ人生を
 味わいたいとの思いを無理矢理実
 現させて戴いた。

幸い、気候温暖な外房で晴耕雨
 読と年二回の気ままな旅行といふ
 最後の人生の楽しみを味わいつつ
 ある。

青春を大東亜戦争の前後の激動
 期に過ごし、運が悪かつたと思
 いはあるものの生きる喜びを、現
 在青春を謳歌している若者よりも
 ずいっと深く味わっていると思つ
 ている。

静岡を離れていまや四半世紀に
 もなり、すっかり母校にはご無沙
 汰しているが、同級・同窓の皆さ
 んの動向は矢張り気にかかるのか
 会報は本当に楽しみである。そし
 てその思いは年を重ねるにつれ強
 くなるようである。

静中時代は誠に平凡な生徒にす
 ぎず、同期の人でも記憶に残らな
 い方も多いとは思ふが五十五期
 の一人が外房で野菜を作り、気
 ままな旅を時折楽しみながら生き
 ていることを知っていただけでは
 幸甚である。

(吉野悟郎)

昭和五十八年一月以来二年十か

月ぶりに静中五十五期会が、いつものように山本礼司君のお世話で昭和六十年十一月三十日、静岡ステーションホテルにおいて開催された。出席者五十一名。うち、関東同窓会からの出席者は次の十名であった。

法月重雄、鷲巢英策、山下武男、辻 弘、戸塚正五、山本 武、中田千束、上杉善雄、武井富夫、相川富士雄 (相川富士雄)

五七回

楽しい集まり

この一年ほどの、東京地区での集まりを記すこととする。

昨年八月七日

前々回のこの欄で書いたことであるが、二月、八月、十一月の各七日に会合を持ち、このうち二月十一月は凸版印刷本社サロンで、八月は河岸を変えて行なうこととした。

その手始めということで、ご紹介をいただき、この日は、国電有楽町駅前、有楽ビル地階の「伊津美」で開催した。場所は便利、店よし、酒・料理よし、しかも格安で、暑さにもかかわらず、歓談は夜おそくまで尽きなかった。参会の面々十八名、これは東京地区メンバーの四割に近い数である。

昨年十一月七日

この日は凸版サロンで行なったが、私の不手際で参会者は五名であった。しかし雑談に花を咲かせ秋の夜長を楽しんだ。

本年二月七日

今回も凸版サロンで行なう。十余名の出席で、談論風発、時のたつのも少し忘れ、身辺雑事、健康状況などを語る。(影島利邦)

五九回

木宮和彦君を勝たせよう

——五十九期の運動——

静岡で常葉(トコ)学園といえは知らぬ人はない。その学園の経営者である木宮和彦君が今年七月の参議院選挙に静岡地方区で立候補する決意を固め、すでに自民党の公認も得て、事務所を静岡市・浜松市に設けて着々準備を進めている。

彼と机を並べた静中五十九期の在静の仲間、是非木宮を勝たせたいと大いに燃えている。去る四月四日夜、紺屋町の喜楽で木宮を囲んで同期会が盛大に開かれた。

私も東京から駆けつけた。この日は雨で賤機山の桜も例年より遅くまだ三分咲きといったところであったが、部屋の中は熱気に包まれていた。以下当夜の模様を簡単に報告すると——

恩師諏訪先生が元気なお顔を見せられ、同勢四十七名。原 暉君の司会の下に、鈴木勇雄君の開会の挨拶、高野 洋君の世話人代表挨拶、諏訪先生の激励の言葉のあと、木宮君本人から決意と抱負が述べられた。続いて原君からこれまでの後援活動の経過報告があり、大橋啓一君から今後の具体的行動計画についての提案があり、万場一致で了承された。さらに河瀬卓二君、松永貞一君、矢島菊之助君及び小生がそれぞれ応援の言葉を述べ懇親会に移った。時が進むにつれ広い部屋の中一杯にあちらこちらに車座が出来、久闊を叙する者あり、選挙情勢の分析に熱を入れる者ありで、今年選挙を迎えた実年どものメートルも否応なく上がって行ったことは言うまでもない。森 実君がたたみ一盤程の大きな色紙に達筆で「必勝」と大書し、皆んながその脇にサインした。

今度改選になる参院の二議席は自民一、社会一である。自民の現議員は藤田 栄氏で彼は静中六十期である。そこへ木宮が割り込もうというところであるから、情勢は決して甘くはないであろう。自民は五十八年選挙のとき二議席独占した経験があるので、夢よう一度というところである。木宮君はトコハ学園という大きな勢力をバックに持っているし濃厚なうちに人なつこい温かさのある人間である。21世紀の日本の基礎を築く教育について情熱と抱負を持っている。中央政界に出れば必ずや立派な仕事をするだけの力を秘めていると思う。名門静中は、その歴史の割りには政界で活躍する人が少ないのは残念である。立て、岳南健児。木宮・藤田両氏には是非でも勝って貰いたい。

春宵一刻値千金。欲は尽きないが木宮君も次の会場へ移らなければならぬ。最後に竹島一夫君、志田昭八郎君、森君等の首頭で校歌を合唱し、木宮和彦万才をとんで閉会した。一言付言すれば、校歌の二番以下を歌わないことになってるのが何とも不可解であった。東京の同期会の時はこちらと歌っているのに。(清水 汪)

六〇回

「郷研」の思い出など

中学時代の思い出は、時の経過で洗い流されたせいもあってか、灰汁が抜けてきれいに見えます。真実のところ、あのガタピシした

校舎、入学した頃土足で歩いた廊下の床など、きれいだったはずはないのに、なんとなく温い静かな情景として思い出されてくるのです。

昭和十五年からの静中時代の思い出は印象程のものですが、比較的纏まって記憶にあるのは郷土研究クラブでの生活でした。

入学した年の夏は確か安倍奥の梅ヶ島から十枚山を越して、興津川沿いを南下してのキャンプ旅行がありました。十枚山では山蛭に襲撃され、山越えは先頭を行くに限ると教えられました。帰りの長い興津川沿いの道では、夕闇のせまる中を沼館先生が前屈みで黙々と歩いておられた姿が今も眼前に髣髴として参ります。沼館先生が亡くなられてから、御郷里の秋田で畢生の城郭史の研究が出版されたことを新聞の読書欄記事で見うけたのも、もう数年前になります。古武士の風格があり、特徴あるアクセントで授業をされた先生も、時々答えられない生徒には「雑巾で顔を洗ってこい！」と怒鳴られたものです。

郷研の部室には、何処から持ってきたのか五輪塔や土器や武具などが一杯ありました。中には日本最古の印刷物の陀羅尼経を入れ

た百万塔もありましたが本物だったのでしょうか。そのほか、明治中頃の静中受験生の入試答案もあって、解答が総て英文で書かれていたことを憶えています。

部誌「郷のかおり」は知名度の高い雑誌でした。最近静岡に向向いた際、駅前の松尾書店で見かけましたが大変懐しく思いました。

忘れもしません、あれは三年生の初め頃ではなかったでしょうか私のクラスの教室は、古い本校舎の剣道場に通じる北側の一番東はずれにありました。その日の朝、駅南から通学してくる友人が「三菱の飛行機工場の西側に住友の工場を建てるための整地をしていて土中から遺跡らしいものが見付かった、掘った溝の壁面には木器や焼けた炭化物らしいものが含まされた層が露出している」と話していました。私等(上杉や村上達)はその日放課後、卒業生の井上薫さんに連絡をとって現場にかけつけました。杉の巨木の根の部分が粘土層の上に荒々しく突立ち、暗渠のいたるところに炭化した灰燼らしきものと穀粒が挟在し、各種の木器、下駄、農具が顔をのぞかせ、また表面粘土中には洗い出されて猪の牙などが散乱していました。

これが登呂遺跡の最初の姿でし

た。

さしずめ、我々郷土研究クラブ員が登呂の発見者と言ってもよいのではないのでしょうか。然し悲しいことに中学生の力では遺物を集める位が関の山で、世界的発見のチャンスはその後の人達にもっていかれてしまいました。

最初の日、私は木でできた万能鋏を掘り出しましたが、途中で一部を欠いてしまつて、これは後で井上さんが藝文庫のほうに、当時の収集品をひと纏めにした際渡されたのですが、私は三十年後偶然の機会に東博でこのレプリカと再会することができ大変驚いたことを憶えています。

こうした静中時代の思い出は郷研を離れたものでは極く断片的でしかありませんが、最後に一つだけ忘れられないことを書いておきたいと思ひます。

昭和十六年十二月八日、日本はアメリカと戦争状態に入れりという朝のニュースが私等を興奮に陥し入れた。その日の朝礼から帰つた一時間目の授業は松永先生の国語であつたと記憶しています。

「私が最近読みましたロンドンタイムスの記事には、日本がアメリカと戦えはどつても敗れることになるだらうと書かれていました

……」

変体仮名で板書される松永先生が、開戦のその日こう話されたことを、その時の先生のお声と、教室の張りつめた空気がともに、今でも膚に感ずるように思い出します。静中の先生達は、静かな方々の中に隠れた激しい何かがあったようです。(逸見昭三)

六一回

十年ぶりの参加

去る四月十二日、静岡シティオで開かれた静中六十一期同期会に出席したので報告致します。

実は同期関東会の世話の中尾君に引続いて見て呉れている安原君から一緒に行かないかと誘われた

数日後、銀座セントラル画廊に某氏の個展に出かけた折、偶々同期の藪崎画伯に会い久闊を叙した際誰彼の話も出、懐旧の念もだし難く十年ぶりに参加した次第です。

手許に三枚の記念写真があります。昭和四十年台が二枚、今一枚は求友亭で開かれた五十一年のものです。内何人かは帰らぬ人となつています。五十五年から昨夏まで大阪勤務で月三回平均として東京・大阪間を百八十回程往復したわけですから、たまには途中下車したいと思ひながら遂々今日迄に

至ってしまったので、先ず駅に降りたつて、駅及び駅前の変りように驚きました。今は西千代田に住む次兄を訪ね、二人で学校から会場まで昔の通学の道を歩きました。何から何まで変つてしまひました。往事芒々、故人となつた長兄を入れて兄三人が静中、ともに故人となつた姉二人が県立女学校と、昭和一桁から終戦の年まで、島田の街から汽車で私達兄弟姉は此の道を歩いたわけです(もつとも姉達は違いますが)。只、堀の姿と、母校のグラウンドで小耳にはさんだ野球練習を見守るファンの(今年が良いら(コトシヤ、エーラ)々というおくに言葉だけは昔のままでした。

定刻に始まつた会場の今年のゲストは英語の諷訪ガマ先生で私達直接教えをうけませんでした、次兄の担任、その御人柄は良く聞かされたものです。恒例の乾杯の音頭は初参加の西田君(イビツ二世)が遅刻した為十年ぶりの私が代役と云うハブニングの後、先輩の木宮さんの挨拶があり、望月ゲツ君のリードで先輩の当選を祈る一駒があり、チョッピリ御時勢を感じられたものの、たちまち、あちらこちらに群が出来て四十年のタイムトンネルを抜けての世界

です。只、出席のメンバーはやや固定しグループもそれなりに決つているようでした。

私達西汽車通の面々も焼津迄の人は殆んど揃つていますが、島田からの五人の仲間が私一人とは淋しいかぎりでした。私の両側は井出君、大石(次)君とともに陸士・甲飛と軍の学校に進み、その人柄は少年時から剛毅重厚で今も、いささかもその資質の失われていない事に深い感銘をうけました。

それにつけても若くして戦死した同じ西汽車通の新村君、又、志半ばで逝つた小佐野君、安藤君等の無念さが思われてなりませんでした。思いがけない人が人物の大小とかかわりなく結構、現世で一応成功されている姿もありました。

宴半ばで後髪を引かれる思いで一人帰京しましたが十年前の帰りに黒川君、中尾君と一緒にしたのに今回は両君欠席、総じて東京勢五十数名もいるのに出席が少いようでした。来年は熱海で開催とかふるつて参加しましょう。

△後記▽写真が送られて来ましたが静中が西中と記入されています。どこの写真屋でしょう?

(浅野徹治)

六七回

山川静夫氏(67)の芸談

「岩波新書」に登場

NHKのアナウンサーとして有名な山川静夫氏が、歌舞伎の名優市川歌右衛門との共著で、「歌右衛門の六十年」と題した著書を岩波書店より出版しました。朝日新聞の読書欄(三月十七日朝刊)に左記のように賞讃されておりましたので、ご紹介します。

「魅力的な芸談引き出す」

六代目中村歌右衛門といえ、今日まずだれも知らぬ者はいない。当代随一の立女形である。その歌右衛門丈が、昭和八年に六世福助を襲名してこのかた、昭和歌舞伎とともに歩んできたその半生は、六十年を語る。聞き手は、つとに歌舞伎通をもって知られるNHKのアナウンサー、山川静夫氏である。相手役としてうってつけだろう。事実、氏は間に解説の文章を織りこみながら、たくみに丈から話を引き出してゆく。歌舞伎ファンだったら新書一冊の分量ではものたりなく感じるくらい、対話のトピックは豊富である。

——中略——

この対話は最後のくだりで急にひきしめる。若手役者に対する要

望が語られる場面である。「歌舞伎できちんときめられていることを勝手に変えてもらっては困る、古いものは古いものとして守ってほしい」(山川氏解説)という芸術的信念から、猿之助と玉三郎の芸風に加えられる論評がじつに興味深かった。(岩波書店「新書判」・四八〇円) (梶原由三)

奇異な時代

一九〇〇年一月二日と三日、報知新聞の三頁に、二十世紀の予言なる記事が連載された。十九世紀の進歩は形而下では「蒸気力時代」「電気力時代」といわれ、形而上では「人造時代」「婦人時代」と名付けられる頗る驚くべきものがあつたとの認識に立って、次世紀の物質上の進歩について想像を回らしたものである。

この記事を、小生の勤務するNIT電気通信研究所の友人が一年たまたま国会図書館で見つけて、教えてくれた。その文章も面白く文明開化を目指していた当時の様子に浮ぶ感じがすると同時に大胆な予測が八十六年を経た今、よく適中しているのに感心する。

小生はLSI開発の研究に携わっており、研究計画を立てるために技術進歩の将来予測をすること

を要求されることが多いが、十年先を見通すことも困難で、力のなさを歎いている。それだけに、この新聞記事の予測とその結果の小気味よさを印象づけられた。当らずと云えども遠からずと云つたものが多い。その中からいくつかを紹介する。

(一) 無線電信電話……マルコニイ氏発明の無線電信は一層進歩して只だに電信のみならず無線電話は世界諸国に連絡して東京にあるものが倫敦紐育にある友人と自由に対話することを得べし

(二) 空中軍艦空中大砲……ツェッペリン式の空中船は大いに発達して空中に軍艦浮び……空中に大砲浮ぶ奇観を呈するに至らん

(三) 暑寒知らず……新機械発明せられ暑寒を調和する為に適宜の空気を送りだすことを得べし

(四) 植物と電気……電気を以て野菜を成長することを得べく、而してそら豆は楳大となり菊牡丹薔薇は緑黒等の花を開くものもあるべく北寒帯のグリーンランドに熱帯の植物生長するに至らん

(五) 人声十里に達す……伝声器の改良ありて十里の遠きを隔てたる男女互に婉々たる情話をなすことを得べし

(六) 写真電話……電話口には対

話者の肖像現出するの装置あるべし

(七) 鉄道の速力……十九世紀末に発明せられし葉巻煙草型の機関車は大成せられ列車は小家庭にてあらゆる便利を備え……単に冬期室内を暖むるのみならず暑中にはこれに冷気を催すの装置あるべく而して速力は……東京神戸間は二時間半を要し……また動力は勿論石炭を使用せざるを以て煤煙の汚染なくまた給水の為に停車すること無かるべし

(八) 自動車の世界……馬車は廃せられ之に代ふるに自動車は廉価に購うことを得べくまた軍用にも自転車及び自動車を以て馬に代ふることとなるべし従って馬なるものは僅かに好奇者により飼養せられるに至るべし

(九) 人の身体……運動及び手術の効により人の身体は六尺以上に達す

この他に予想の適中率は別にして興味あるものいくつかを追加記載してみる。

(十) 医術の進歩……薬剤の飲用は止み電気針を以て苦痛なく局部に薬液を注射した顕微鏡とエックス線の発達により病源を摘発して之に応急の治療を施す事自由になるべし……後には肺結核の如き

も肺臓を剝出して腐敗を防ぎパチルスを殺すことを得べし

(十一) 人と獣との会話自在……獣語の研究進歩して小学校に獣語科あり人と犬猫猿とは自由に対話することを得るに至る

(十二) 暴風を防ぐ……気象上の観測進歩して天災の来たらんとすることは一ヶ月前に予測することを得べく天災中の最も恐るべき暴風起らんとすれば大砲を空中に放ちて変じて雨となすを得べし……また地震の動揺は免れざるも家屋道路の建築は能く其害を免るるに適當なるべし

この新聞記事は最後に「とに角二十世紀は奇異の時代なるべし」と結んでいる。この記事の筆者が今日を觀たらどう感ずるであろうか。未来に描いた夢が多くは実現するものであることを感ずるとともに、予想を越えた世の中の進展にも驚くことであろう。さて我々は二十一世紀に対してどんな夢を描くことができるであろうか。いづれにしても、それは正に「奇異の時代」であろう。(向井久和)

六八回

「マスターズ」観戦記

ゴルフ人口は着実に増加の一途をたどっているようです。当同窓

会のメンバーの中にも、好きな方がかなりいらつしやるのではないのでしょうか。かく申す私もその一人であるわけですが、この四月、幸運にもマスターズ観戦の機会に恵まれ、あの「帝王」ニクラス大逆転優勝の、絵にかいたようなシーンを見てまいりました。

決勝ラウンドの最初の日(第三日目)は、中島やトレビノ、ヒューバート・グリーンなどの選手について、オーガスタの十八ホールを全部歩き通しました。最終日は16番池越えの名物ショートホールのグリーンわきに、デンと腰を据えて観戦しました。ニクラスは15番のロングでイーグル、そして16番でピンそば1メートルの絶妙なショットを見せてくれました。もちろんバーディーで、ここで優勝に王手をかけたわけです。

思いもかけない、まさに思いもかけない展開に大ギヤラリーの熱狂ぶりはすさまじいものでした。その熱狂の渦の中で、私も久しぶりに興奮と感動を味わいました。

このマスターズですが、入場券の入手が想像していた以上に極めて困難であることを現地へ行ってから知りました。在米十年を越す日本商社員ですが、大切な取引先の人に頼まれて、これまで毎年の

ように入場券を求めてかけずり回ったが、いまだに一度も実現しなかったと言っておりました。日本人を問わず、こうした人たちに何人会い「どうして手に入れたのか、ルートを教えてほしい」と問いかけられたほどです。その筋の人に聞いたところによると、入場券はすべてゴルフ場の会員に割り当て配布され、そこから全米に流れるわけですが、入場券にはすべて番号が記入されていて(入場カードは常に胸などにピンで付けておく)、入場者が少しでも不仕末な事をするとその入場券を譲った会員が厳しい処分を受ける。だから会員は入場券の処置には非常に慎重になり、その分、入手が困難になっているということでした。

つまり、選ばれた人しか入場できないというわけです。そのためでしょう。米国では、特にニューヨークなどの都会の話ですが、置き引き盗難に注意するよう、旅行社の人に口がすっぱくなるくらい忠告されるんですが、このマスターズ会場は、大群衆がいるのにもかかわらず、そうした不安が全く感じられない雰囲気でした。そんなところにも、「マスターズは特別」という関係者の誇りが伝わってきました。

それから、これまでテレビで何回も観戦しながら全く気がつかず、今回、実際に会場に来てみて初めて「あれ」と気がついて不思議に思ったことが一つ。それは数万人のギヤラリーに黒人が一人もいないということですが、オーガスタのある南部は、南北戦争以来黒人差別は余り意識しないところであるのですが、どういうわけでしょう。この理由は聞きのがしましたが、これも「特別」なるが故でしょうか。

さて、貴重なチャンスを得て、さらに欲を出し、このマスターズ会場でゴルフをやってくるつもりだったのですが、とんでもないことでした。マスターズ後は九月までクローズして手入れをするというのです。まるでマスターズのためにだけ存在するゴルフ場のようなもので、またまたすじいと思えました。

で、仕方なくラスベガスでやってきました。脳裏にはマスターズの、そしてニクラスのナイスショットが鮮明に焼きついています。ゴルフはイメージが大切だと言います。であれば、好スコアーが出るはずでした。

帰国後、いまだにスランプで焦りに焦っています。

七三回

喜怒哀楽を共有する
素晴しきかな同期会

◇ ◇
申し遅れました。私、この三月に転勤で東京にきました(静岡新聞・静岡放送東京支社長です)。

昨年十二月初旬、静岡七三期東同期会が、東京・日本橋の箱崎シティーエアータミナルで開催された。出席総勢三〇人余り、久方ぶりに女性三名の参加を得て、近年にない賑やかな会であった。

私は野球部OB会長の宗野徳太郎氏と同期で、同じOBの会員でもあるからです。ところが、あいにく、五月三日の定期戦が雨で十八日に延期となり、はたと困りました。そして急ぎょ、話題をマスターズに変更しようなわけですが、

今回は、山下勇三君と不肖、私小野田が幹事を務めさせて戴いたが希に見るような盛会となった。今回の同期会は、これまで幹事と名が付くものは一度もやったことのない私に呆れつつ奮闘して戴いた山下君、女性軍を口説き落とす錦上花を添えて戴いた代表幹事の中西英一君、そして、校歌等懐かしい歌の楽譜を送付戴くなど、万事に於いて気を使って戴いた静岡同窓会事務局の長野純明氏(60期)らのご尽力、そして出席各位のご協力の賜物であることを、まずここにご報告し、感謝の意を表しておきたい。

で、つまらなくラスベガスでやってきました。脳裏にはマスターズの、そしてニクラスのナイスショットが鮮明に焼きついています。ゴルフはイメージが大切だと言います。であれば、好スコアーが出るはずでした。

いま、楽しく思い出されるこの同期会は、何を措いても、臨席賜わった三人の女性抜きには語れないだろう。現在、文部省の課長である遠山敦子さん(旧姓・小沢)、わざわざ浜松市から駆け参じて戴い

た間淵啓子さん(旧姓・渡辺)、かつての別嬪さん(当然、今もです)後藤孝子さん(旧姓・伴野)いづれ劣らぬ「実年」、失敬、名花揃い。迎える男性の張切りようは、尋常ならざるものがあつた。いつもなら、しんみり盃を重ねるといったムードの会であるが、こうして三人の女性を迎えてみると、さすがにパッと座が華やぎ、男達は、我勝ちに壇上に立ち、マイクを握つた。家庭のこと、子供のこと、仕事、遊び、昔の思い出さながら「題名のない講演会」のごとく、次から次へと、しかも喜々とした話の洪水。まことに楽しい一時を、私も幹事の立場を忘れて楽しんでしまった。いつも同期会には出席させて戴き、挨拶の指名に苦慮している幹事さんの苦勞を横目で見ていた私は、「こんな盛り上がった会だつたら幹事は楽だ」と、己の幸運を喜んだ次第である。

私が同道した若いピアノニストは張り切つてくれた。盛り上がりを見せた会の後半、素晴らしいピアノ伴奏が我々の歌に、さらなる郷愁と感激をかきたてたと感じたのは、あなたがち私のひいき目だけではなかつたろう。(ちなみに、この人は私の友人のお嬢さんで鈴木雅子さん、二三才。読売新人演奏会にも出場、この四月より上野音楽大講師)

関係の皆さんのご尽力、ご協力とでは盛会の内に終わり、幹事としての肩の荷を下ろしたのだがなぜか今回の会できつぱり感慨深く思ひ至つたのが、「皆同じ四八歳なのだ」ということである。医者あり商人あり、公務員、自由業ありと多士済々、それぞれ歩んできた道は違つていても、皆んな同じ喜怒哀楽を持つているのだとしみじみと感じたものだ。家庭環境、子供の年格好、そろそろ家では「粗大ゴミ」、社会に於いて皆んな中堅の悲哀と喜びを持つていること等々、共通して四八歳のそれなのである。ひとりツツッパつて生きてきて、まわりの者からは年より若く見えるなどおだてられている私も、いつの間にか老眼鏡が離せなくなつてゐる。気がつけば、同期会の皆も同じような肉体的な衰えを互いに気付き合つてゐる。同じ悩みも、同じ喜びも共有でき腹藏なく励まし合え、傷を替め合う事ができる場、どこを向いても四八歳、それが同期会の素晴らしさ、貴重さなのだと思う。

七六回

(小野田幸雄)

喫煙

十五世紀の終りに、コロンブスがヨーロッパに持ち帰り、全世界に広がつたとされる「タバコ」。一時は、動くアクセサリー等と持ち上げられたが、ここ数年は凋落の一途である。

たしかに嗜好品として酒とタバコを比較してみると、タバコは害のみが目立つ。酒飲みも決して良いマナーとは言えないが、タバコのみはマナーの悪さが目立つ。タバコの吸いがら、空箱をホーム路上に捨てる等は日常的、中には、自分の車の灰皿の中身をすつかり路面に捨てていく者もいる。自分の灰皿を使用するのが惜しくて窓から手を出して灰をすてるもの、まるで自然の浄化作用を過信しているかのようである。

狭い室内、車内で煙を吸わされるのも迷惑な話である。いつそのこと、タバコに重税を

かけたらどうかと思う。一石二鳥三鳥にもなる。

もっとも禁煙の中でなければ、文学も、名曲も産まれないのかも知れないが。

世の中に、絶えてタバコのなかりせば、俺の心はどけからまし

(鈴木 浩)

よりよい会報をめざして、

会員みなさんのご協力で、会報も21号を発行するまでになりました。読み応えのある原稿が今回も集まり編集委員も喜んでおりますが、会員が毎号目を通してくださっているかどうか、またこんな記事載せたらという意見や希望をお持ちではないだろうか等々と、色々気に懸けながら編集している次第です。

さて、「会員名簿」を拝見しますと、わが同窓会には各分野で活躍されている先輩が大勢おられます。会報に「先輩と後輩対談欄」を設けてみてはと考えました。

若い人々に特に提案します。この方にごんな話を伺いたいという希望を編集部あてにお申し込みください。

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

ねつ かん
熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67回)

住 所 熱海市春日町12-2
TEL 0557-83-3131

話題のスペース
(明治通りと大久保通りの交叉点)

レストラン・モア

小人数から30名様くらいまでクラス会等に最適です

土 屋 晃 康 (67回陸上)

TEL 03-208-2931・204-1251
東京都新宿区大久保2-1-3

を過ごし新人戦にのぞみました。新チームで中部地区大会で優勝をしてしまいました。DFがかたく失点0でありましたが、準決勝の清水東戦でGKの松原君が清水東の反則にあい右膝内障・前十字靭帯半月板損傷という病名のため、すぐ入院手術。チームにとってゴールを守る要を失う結果になってしまいました。

また大石君（67期の大石繁氏の三男）が第二十五回アジアユース選手権大会に出場、対韓国戦にのぞみました。各々が個性があり、たくましく成長しています。

今年も三年生が中心となって、定期戦では大変お世話になります。浦高とのがんばってまいります。浦高とのが本年もよろしくお願い申し上げます。また母校にお寄りになった時にはぜひとも激励を！ 鈴木吉明氏（60期）の正月のきびしい言葉を大切に……。

（69期・松永弘道、母校教員）

◎「静岡だより」について——
毎号、静岡新聞勤務の同窓生のご協力で、ふるさと静岡のこと、母校のことを知り得ることはありがたく、嬉しいかぎりです。さらに、こんな「静岡だより」という希望をお寄せください。

石割正著

「闘魂」出版を祝う会

二月十七日午後六時から平河町海運クラブ大ホールに於て催され船長さん達や海運関係、政財界の錚々たる参会者二五〇名を越える盛会であった。関東同窓会からは42井出・村松、43今井、44臼井、53奥野・月見里、54庵原、60上杉61君島、67成岡、70味岡・中馬等の諸氏が出席してお祝いした。石割先輩の「闘魂」出版について、日本海事協会発行の三月一日付「海上の友」紙は二面を割いて掲載しているが、この日の会の次第について次の様に報じている。

まず川島裕・日本船長協会会長が主催者として「石割船長は戦前・戦中・戦後を反骨の精神をもって生き抜いた大船長であり、この本は一服の清涼剤です」と同書の内容紹介を兼ねて挨拶。

次いで来賓を代表して、大阪商船三井船舶相談役（元社長）の永井典彦氏は「（三井船舶時代の石割さんとの仕事上の交流の思い出を語り）あのころはお互の立場を理解して何でもいえる雰囲気があった。海陸が通じ合っていて、石割さんも船乗りとして幸福であっ

たと確信している。「闘魂」なくしてこれだけの本はまとめられなかったと思う」と、その努力をたたえた。

壺井玄剛・日本船員福利雇用促進センター会長は「石割さんはその名の通り石器時代の名工の子孫（と笑わせ）であり、今川義元の流れをくんでいる。柔道六段の猛者であり、「闘魂」出版に終わらずむしろこれから船長のために大いに働いていただきたい」と激励した。

このあとお礼の挨拶に立った石割さんは「（感慨をこめて現役時代、日本船長協会会長時代をふり返り）私も八十一歳になり、これからの人生をいかに過すかを考えている。先輩に今年九十六歳の森勝衛船長がいる。そのかくしゃくたる老船長の風格にぜひあやかりたいものと願っている」と結び、参会者の拍手を浴びた。

そして、その森船長の音頭で乾杯、なごやかな懇談に移った。



「闘魂」／＼老船長八一年の回想
著者石割正氏は同窓会総会その他の行事で乾杯の音頭等お世話頂く三十五回卒の先輩、昭和2年東京高等商船学校航海科八十六期卒業の後六十年に垂んとする海上生活に於て大自然と闘い、過ぐる大戦に於いて敵潜水艦と闘い通した老船長であり、日本船長協会会長その他海事関係の重要な公職を歴任された方である。

本書は生い立ち、静中時代から書き起こし、その永い船長の体験記録であり回想録であると共に、今後世界の荒波に闘うべき後輩に与える激励の書である。

発行所 桜書房（千代田区富士見一八一―九、電話〇三二二六三一七四三二）、定価二千元。

＜お願い＞
「会報」には、これからも、
①同窓生の著書
②関係された著作物
③諸兄弟にぜひ読んでもらいたいと思う書籍 など
これらの紹介記事もどしどし取り上げたいと思います。
原稿（15字詰）をお寄せくださるようお願いいたします。

建築設計・監理
株式会社 **ユニオン設計センター**
代表取締役 成岡 英彦 (67回)
一級建築事務所登録7425号
東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル
TEL 03-363-8604 (代表)

同窓会コンベンなど、ご相談ください。
伊豆大仁カントリークラブ
伊豆大仁開発株式会社
代表取締役 石橋 正秋
取締役支配人 安田 正弥 (66回)
静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1
TEL 0558-76-2401 (代表)

謎解きの随想

40回野崎操一氏著書「心の軌跡」から

月見里得知郎

阿吽の空気生活 (1)

地球の年齢は四十〜五十億年と推定されているが、地球上には、最初、現在のような空気は無かった。次第に原始の空気が発生したけれども、酸素の多い組成の空気に変わったのは、二十〜三十億年前であろうと言われている。やがて生物が発生し、人類が棲息する現在が続き、地球の将来は凍死するか炎上するかは、まだ科学者の意見の分かれるところであり、空気の歴史がいかに移り変わるか測り知ることは困難である。ただ、空気の存在が人間の生命にとって絶対不可欠の要素であることは確かであるにも拘らず、あまり関心を持たれていないように思う。

人間の生活を通常、衣・食・住に分けて、未開人であろうと文化人であろうと、その人種の着る生活、食べる生活、住む生活の程度の高低によって、人間生活の文化的民度や風俗習慣を表わす基準にしている。

しかし、これは空気が汚されな

かった時代のこと、これからは人間の生命に根本的に必要な空気の中で生活を、一つの重要な生活条件に入れなければならないようになって来た。空気を汚さないようにすること、並びに汚れた空気をきれいにする方法については、空気の清浄化に関する研究と技術が開発されつつあるので、これはその方面に譲り、ここでは人間一人一人が空気の恩恵に直接浴する手段である呼吸、すなわち空気の生活について述べようとするものである。

人間の口や鼻を通して空気を吸い込んだり吐き出したりする動作に伴う生理作用には、あくび・しゃっくり・せき・くしゃみのような一時的な作用があって、それぞれ大切な働きを持っているのであるが、最も継続的なものは呼吸である。その呼吸にも、無意識の内に行なっている呼吸、気絶した時の人工呼吸、呼吸力の弱った時の酸素吸入、体操、運動、坐禅、ヨガで行なう深呼吸などが挙げられる。

酸素の供給源としての吸気と表裏一体をなす呼気も巧みに利用されて口笛や吹奏楽器の音源となるのを始め、呼気を発声に応用して喚びたり泣いたり笑ったり悲鳴を上げたりして、感情を表わす。言語を話すことによって意志の伝達を行ない、文章を読み上げて記録されたものを反復し、音曲を歌って情緒を表現し、その格調の高いものは芸術の範疇にはいるものである。

人間一生の間、臨終で息を引き取るまで、昼となく夜となく働き続けている機能が二つある。一つは心臓の鼓動であり、も一つは肺の呼吸である。心臓の方は自分勝手にその活動を止めたり動かしたりすることはできないが、呼吸の方は意志によって一定の限度内でコントロールすることができる。精神状態を安定させるためには、心臓の活動を安定させなければならないが、それは直接できないので、呼吸を安定させることによって、間接的に精神を冷静にするようにコントロールすることができ

体内の葡萄糖を分解し、その際、化学作用に伴って発熱する。この発熱が人間生存のエネルギーになるのであって、この燃焼によって生ずる炭酸ガスと水分は呼気に混って排出される。

人間の肺胞は身体の表面積一・五平方メートルの五〇倍に当る五〇〜七五平方メートルもある一種の自動清浄湿式高性能フィルターも兼ねている。そこでは、吸気中の酸素が大気の組成の二〇・九六％あるものを、呼気では一六・四％の含有率に下げて排出するのに対して、肺胞気は一三・八％まで酸素を吸収してくれるから、

酸素の吸収率が差引二・六％多くなり、それだけ余計に酸素吸入をするのと同じことになるわけである。二・六％は吸入空気全量に対してのパーセンテージであり、呼気中の酸素に対しては一六％アップに相当するから、肺を一種のポンプと考えれば、かなりの効率上昇と言える。これが深呼吸やヨガのクムバクが大切となる理由である。

英語では吸気のことをインスピレーションという。普通インスピレーションというとき、この単語は両方の意味がある。そして呼気をエ

クスビレーションとによって終結などの意味があつて、共に呼吸の語が精神的な意義に関連のあることを示している。

日本語では、呼吸のことを息という。息は生きるに通じて、息をすることは生きていくことである。長息は長生だといふ説もあるくらいで、息が絶える、息が続く、息が合う、いきおいがよいというように、呼吸は即ち生命を表わしている。

昔、山伏は出で入る息に阿吽の二字を唱えながら深山幽谷に分け入って荒修行をしたと言われている。この阿吽について仏教では、阿とは一切の太初万有発生の理体吽とは一切の太終万有帰着の智徳の義としていふところから見ると、阿吽は即ち呼吸のこと、洋の東西を問わず呼吸に対して共通の哲理を有していることが判る。社寺の参道の左右に高麗狗の二匹が相対し、一方は口を開き一方は口を結んでいるのを見かけるであろう。これは阿吽を象徴したものである。また山門の金剛力士も左右の二体が必ず阿吽の形相をしているのも、同じ思想から出ているものと思われる。

「 一 」 え

41 伊藤 顕信
昭和六十年十月二十二日に父顯信は永眠致しました。ここに生前の御厚誼を深謝致します。
未納の会費二千元也、納付致しておきます。(長男)伊藤敬義

42 堀 衷
柳川君の急逝は私を茫然自失させた。彼は中学高校を通じ、陸上競技部でチームメイト、クラスの事実上のまとめ役、その上同窓会の中心幹事として、母校の重要な行事の実施に貢献する等々、懐かしい憶い出は数を知らない。今改めてその御冥福を心からお祈りしたい。

43 吉江 誠一
ややふとりすぎで、人並みに成人病的症状を具備していますが、まあまあ健康状態です。
やりたい仕事はいくらでもありません。まだまだがんばります。

一年生終了と同時に旧陸軍幼年学校に転校して短く短い在校でしたが、なぜこうも印象深いのでしょうか?
岳南健児の楽しさと意義とは終

生忘れることはないでしょう。

47 鍋田 康
昭和五六年四月静岡聯隊の戦友会慰霊祭があり、護国神社で脳出血のため倒れ、現在小康を得ておりますが療養につとめています。
48 奥山 正
遂に前立腺肥大にて入院中、生れてはじめての入院ですが、今度の同窓会には出たいものです。

44 中嶋 敏
筆のすさびの四行詩
銭の無き身はつらかりき
銭はあれども安からず
人に尽すは易かりき
人とせめぐの難きかな
45 梶原 忠治
幹事の永田様より毎回御丁重なるお便りをいただき恐縮しております。小生すでに老境に入り、今はすべての勤めをやめ、専ら老人会・ゲートボール等に興じ、悠々自適の生活を送っており、昔の友が無性に懐しくなりました。これからは大会等にも出席するつもりです。

46 中嶋 敏
筆のすさびの四行詩
銭の無き身はつらかりき
銭はあれども安からず
人に尽すは易かりき
人とせめぐの難きかな
47 梶原 忠治
幹事の永田様より毎回御丁重なるお便りをいただき恐縮しております。小生すでに老境に入り、今はすべての勤めをやめ、専ら老人会・ゲートボール等に興じ、悠々自適の生活を送っており、昔の友が無性に懐しくなりました。これからは大会等にも出席するつもりです。

48 岩崎 鑑一
何時もお世話になっております。遅れて申し訳ないですが会費をお送りします。小生目下無職ですが、まだまだ働きたいので鋭意職探しをやっていますが、年令が邪魔して、なかなか見つかりません。長期戦の覚悟です。
49 吉野 悟郎
永年の勤め人生活に終止符を打ち先祖の地に戻りました。農地が一三〇アール許りありますので、家内と二人畑仕事にはげんでおります。細々乍ら晴耕雨読らしき生活をしております。千葉県の田舎町なので静岡には仲々行けず残念ですが、今後とも宜敷くお願いいたします。

50 江川 友治
大学で大声で講義しているのが良いと見えて、おかげで大変元気です。六十八歳のいまは若い時ほど飲みませんが、それでも研究室で学生と一緒に飲んだり、気の合

51 誠
引続き、キャンノンの関連会社(精光社)の顧問として常勤しています。昨年度の五十二期の同期忘年会は十二月五日、銀座のアマンテで十八名出席、一夜を楽しく過ごしました。
52 今井 健三
本年はソウルでアジア大会。私が全日本男女ホッケーチームをひきつれて行ったインド大会から四年もたつてしまった。今年は冬休みを利用して小生が監督をしている東農大ホッケーチームと共にホッケーを国技としているインド遠征を計画しています。

53 牧 知巳
元気で働いて居ります。老夫婦二人の静かな家ですが、時々孫を見に行ったり、見せに来たりの生

54 仲野 実
本年八月より、人材幹旋会社エイブル・フェローズ(三菱商事の関連事業投資先)へ出向しております。

55 山崎 和夫
昭和六十年十一月に横浜市中区寿町二一八―八京浜船貨整備株式会社に就任致しました。電話〇四五―六八一―五三五―一です。
横濱にお出掛けの際は是非ご連絡下さい。
関東同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

56 萩原 莊平
昨年十二月末に何年振りかで静岡駅に下車しました。駅及びその周辺がすっかり昔と変わってしまいました。戦前の駅、終戦時の駅、現在の駅が頭の中であらゆる廻り、その変り様に感慨を覚えました。

57 小杉 謙一
新語で我等世代は実年とのこと、お陰様で元気で頑張っております。静岡にも出張することがあり、故郷の風物に接する喜びを味わえ、幸せに思っております。(日動火災海上保険勤務)

58 中村 睦
日大関係の事で用事がありまして、何時でも電話してください。〇四七四―一六六―一五二七三 何とか努力します。

59 近藤 陽三
本年はソウルでアジア大会。私が全日本男女ホッケーチームをひきつれて行ったインド大会から四年もたつてしまった。今年は冬休みを利用して小生が監督をしている東農大ホッケーチームと共にホッケーを国技としているインド遠征を計画しています。

60 萩原 莊平
昨年十二月末に何年振りかで静岡駅に下車しました。駅及びその周辺がすっかり昔と変わってしまいました。戦前の駅、終戦時の駅、現在の駅が頭の中であらゆる廻り、その変り様に感慨を覚えました。

61 山崎 和夫
昭和六十年十一月に横浜市中区寿町二一八―八京浜船貨整備株式会社に就任致しました。電話〇四五―六八一―五三五―一です。
横濱にお出掛けの際は是非ご連絡下さい。
関東同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

62 萩原 莊平
昨年十二月末に何年振りかで静岡駅に下車しました。駅及びその周辺がすっかり昔と変わってしまいました。戦前の駅、終戦時の駅、現在の駅が頭の中であらゆる廻り、その変り様に感慨を覚えました。

63 小杉 謙一
新語で我等世代は実年とのこと、お陰様で元気で頑張っております。静岡にも出張することがあり、故郷の風物に接する喜びを味わえ、幸せに思っております。(日動火災海上保険勤務)

64 佐野 旭
現在、協和ビジネスサービス(株)に出向中です。
65 馬場 泰男
いつもご無沙汰で恐縮です。高田馬場へお越しの折は是非お立ち寄り下さい。

66 中村 睦
日大関係の事で用事がありまして、何時でも電話してください。〇四七四―一六六―一五二七三 何とか努力します。

爪壯、小沢武彦、磯部一、

長田宏、酒見秀夫

六〇 萩原在平、鈴木明、里見元一郎、君島康弘、渡辺博、

溝間猛、野沢栄司、山本善通、井出裕雄、猿谷有弘、

六二 河合陸郎、尾崎龍男

仲野辰男、黒川泰三、芹沢博樹、中尾昭、山崎和夫、

長瀬脩、大村富士男、安原徹治、萩原将弘、竹迫友一

土井正園、相羽達雄、徳永重遠

六三 柴田有年、寺尾寿夫

高橋孝雄、海野昭平、鈴木市三、真田宗明、白鳥芳夫

塩沢敬、鈴木恕吉、田喜光北畑勝雄、稻森茂、谷繁次

加藤平三郎、三枝弘之

六四 六五 仲野実、渡辺進式、

吉井駿亮、増田誠男、秋山知賀三、馬場泰男、狩野達

彦、神谷武男、豊納健蔵、杉本哲、佐野旭、柳田堯、

加藤満、浅井幹夫、塚本光彦

六六 増井和夫、加藤博司、三原

載、村越立彦、藤原朝則、杉本幸貞、小嶋清司、村松

武司、久保泰夫、浜田裕志 関本和男、永田陽一、長倉

良平、藤原隆二、佐藤六登

志、杉村行勇

六七 矢部隆、吉野亭、増田安国

向井久和、小杉謙一、瀧川博、手塚重明、長倉孝三、

河口正義、戸塚惣雄、小沢皎二、大村原

六八 宇田貞子、鍋田邦彦、中村

睦、丸尾敏夫、市原卓、石川堯昭、佐野川好母、瀨瀬

晃生、小林功典、赤松靖弘 市来昭二、望月芳朗

六九 田川邦子、福山秀雄、内田

七〇 渡辺勝美、松山多美、西山

信三、小佐野栄雄、河井良夫、小山清継、大場良臣、

若林久二、原田行造、味岡宏、遠藤藤弥、牧野甫、鈴

木清、石本明、仁科正雄、

大山祐司、大地不二雄、斎

藤長三郎、松永茂、三上隆英、小長谷清美、石川悟、

松井昌夫、有田久、田中宏志

七一 実石欣哉、酒井力、安藤竜

男、片山嘉博、友田勲、徳田武司、関本光宏、小関修

身、奥村鋭一郎、村松綾啓 本間啓司、遠藤幸男、白井

力、片山守彦、的場徹、岩島謙一郎、山田勝司、岩崎

剛、今村清彦、笠井克彦

七二 丸山安彦、佐藤修一郎(3)

仁藤宏次、石川正明、鈴木

靖二、内藤博次、増田欽一 前田信之、山本勝男(4)

田宮督夫

七三 石川八洲夫、近藤守、杉山

光、望月公美、麻生貞敏 (3)、中川明久、古井大

一朗、大村博、松下勝朗、 望月智、深尾皓、永田俊彦

小柳忠義、大石堯史、鈴木智彦、青木俊一郎(3)、

岡本修、大長義信、塩坂雅

司、石割浩司、柴山欽伍、 松永烈、利根川正、遠山敦

子、山下勇三、加藤元彦、 西田和子、鈴木斉、小野田

幸雄、梶原重則、宗像純司

杉山親司、赤木政夫、石川

征四郎、関悦男

七四 木村敦、寺尾絢彦、平岡若

生、細川紀子、中村美代子 田中佐知子、佐藤薫郷、沖

葉子、川村知巳、鈴木三郎 日野谷実子、山内章、山脇

伊久男、見城尚志、勝岡田 武司、藤倉美耶子、佐伯馨

小栗悠嗣、大島崇志、柳沢 弥太郎、青山紘、勝亦正安

川瀬光彦、友田徹、鷺山裕 美、福地茂樹

七五 稔、仲沢洋文、飯田善久、

遠又英祐

八四 生駒光博、水越伸昭、成田

惠理子、岩口康男、竹下晴 久、田辺哲、小沢治夫、杉

本浄、高田理孝

八七 渡辺久記、浜野洋行

八八 和田知行

八九 日野資成(10)

九四 松井琢磨、布野裕子、小池

一徳、篠崎光、榊井隆、石 川雄一、佐々木美登里、赤

尾博、人見百合子

九七 寺西浩

昭和六十一年五月現在

()内は口数

第39回「江の島会」案内

一、日時 九月七日(日) 正午、

十一時より受付

一、場所 江の島恵比寿屋旅館 (35期永野清氏経営)

一、会費 七千円、女性六千円 (記念写真代を含む)

年会費不要

一、連絡先 〇四六六一二六一

二三三八 村松迄

お誘い合わせの上、是非ご出席賜

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原由三 (67回)

東京都中央区八丁堀2-1-7

神瀧ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

不動産のご用はぜひ

三井不動産販売ネットワーク

城南リハウス株式会社

目黒店・自由が丘店・蒲田店

日東不動産株式会社

取締役社長 田島弘一郎

取締役副社長 調子達郎 (70回)

東京都目黒区下目黒1-3-27

TEL 03 (491) 0171 (代)

鈴与株式会社

取締役会長 鈴木与平 (44回)

清水市入船町11-1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

東京支社 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F

TEL 03 (284) 0551 (代)

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤次郎 (42回)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

本田技研工業株式会社

川島喜八郎 (52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8

TEL (499) 0111 (大代表)

株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平 (42回)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57回)

本社 静岡市国吉田645

TEL 0542 (62) 1111 (代)

東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル

TEL 03 (272) 4651 (代)

川根銘茶

三保乃園山菅茶店

山菅章雄 (53回)
(村松正七)

東京都港区南青山1-20-6

TEL 03-403-5760

建築コンサルタント・設計施工業務
建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長 奥野孝 (53回)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝 (53回)

取締役社長 奥野進 (56回)

取締役副社長 奥野広 (58回)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

TEL 03-842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

TEL 0542-46-9378

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈正三 (67回)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-254-2171 (代表)